

逆境で愛を忘れず

モーニングセミナー

今日一日、朗らかに
安らかに、喜んで
進んで働きます。

<制作・著作>
新居浜別子倫理法人会
TEL 0897-65-1644
FAX 0897-65-1644
beturin@mx82.tiki.ne.jp

ピンチはチャンス

苦境に真つ向から立ち向かう

デジタルカメラがまだ出始めの頃、私の母がデジタルカメラを買って来ました。機械操作には全く疎い母でしたが、買った当初は嬉しかったようで、はしゃぎながら

デジタルカメラ

色々写していました。何日かして、メモリが一杯になって写せなくなり、「どうすればいいの？」って聞いて来ました。仕事が超多忙で「忙しいから説明書読め！」とつ

い怒鳴り、その上、「つもらないものばかり、撮ってるからだろ！」とも言いました。それで、「一体何撮ってるんだろ」と中を見たら、私の寝顔が写っていました。涙が溢れて、止まりませんでした。

した矢先、父が心筋梗塞で死亡。急遽四代目を継いだ兄はコンサルの助言を聞き、みに機械化路線を突き進み、父に請われて市役所を辞め総務部長として会社を補佐していた私の夫(現株主TAMU社長)は、兄(社長)と対立。母と共に会社を去り、平成十四年、十七億の負債を抱えて会社が倒産した時は、大正時代から九十年の歴史ある会社や技術を持つ社員を守れなかった無力さを痛感。その後、夫と私、元従業員四名が中心になって紙器製造の新会社を立ち上げましたが、何度自殺を考えたことか。そんな折、倫理法人会を知り入会。朝起き、笑顔、輪読リーダー、トイレ掃除等出来ることは積極的に何でも実行したところ、偶々当社開発の紙製ゴミ箱が全国的に評判に。五年経った頃には、NHK「四国羅針盤」に取り上げられ、万人幸福の菜・十七箇条の倫理の教えを生かし、家族・従業員を大切に技術力を生かす経営が徐々に軌道に乗って始めました。厳しい状況は今も変わりませんが、倫理の教えを道標とし、皆さんが喜んで下さる物づくりに邁進したいと思えます。



役員朝礼 挨拶実習



「夢かぎりなく」斉唱



万人幸福の菜 輪読



丸山幸男会長挨拶



村尾志満子会員スピーチ
西野三和講師を招いての「目のトレーニング」報告

ある時、ある営業マンが、取引先に対して、取り返しのつかないような大きなミスをしてしまいました。その営業マンの大失敗に對して、取引先の社長は完全に立腹してしまい、「取引停止だ！」の一点張り。その取引先は、会社にとっても一番重要なお得意様だったので、その営業マンが所属する会社にも大きな損害を与えてしまう大ピンチにまで発展しました。普通なら、落ち込んでしまい、他の仕事は全く手につかなくなるような決定的な危機です。その時、その営業マンの行った行動。それは、一ヶ月間毎日、取引先の社長にひたすら謝りに行くことでした。そして、相手の社長が許してくれなかった場合のことも想定しました。自分の失策のせいで会社に迷惑をかけるようにするため、失った売上をカバー出来るよう、新しい取引先を必死になって開拓したのでした。すると・・・、一ヶ月後、彼の成績は、失敗する前の倍に跳ね上がった。取引先の社長も、毎日毎日謝りに来る、その営業マンの誠意に根負けして、許してくれました。さらに、必死で開拓した、新しい顧客との取引もスタートした。

「17 箇条で反省し、生きる道標に」と語る田村明美講師



苦難福門、倫理との出逢いに感謝！

平成二十一年十一月二十五日(水)午前六時から、第三十七回モーニングセミナーが開催され、松山市倫理法人会、株式会社TAMU、田村明美氏を講師にお迎えし、「苦難福門、倫理との出逢いに感謝！」と題して、「講演頂きました。実家は紙器製造業で、三代目だった厳格な父から「一円を大切に」と教えられる育ちでしたが、家内工業から機械化の流れの中、十億の借金をして大手印刷会社と共に工業団地へ進出した矢先、父が心筋梗塞で死亡。急遽四代目を継いだ兄はコンサルの助言を聞き、みに機械化路線を突き進み、父に請われて市役所を辞め総務部長として会社を補佐していた私の夫(現株主TAMU社長)は、兄(社長)と対立。母と共に会社を去り、平成十四年、十七億の負債を抱えて会社が倒産した時は、大正時代から九十年の歴史ある会社や技術を持つ社員を守れなかった無力さを痛感。その後、夫と私、元従業員四名が中心になって紙器製造の新会社を立ち上げましたが、何度自殺を考えたことか。そんな折、倫理法人会を知り入会。朝起き、笑顔、輪読リーダー、トイレ掃除等出来ることは積極的に何でも実行したところ、偶々当社開発の紙製ゴミ箱が全国的に評判に。五年経った頃には、NHK「四国羅針盤」に取り上げられ、万人幸福の菜・十七箇条の倫理の教えを生かし、家族・従業員を大切に技術力を生かす経営が徐々に軌道に乗って始めました。厳しい状況は今も変わりませんが、倫理の教えを道標とし、皆さんが喜んで下さる物づくりに邁進したいと思えます。

「てらこや」という漢字から

草食動物的教育と肉食動物的教育

「てらこや」という漢字を慈しみ、社会に出たときを書いて貰うと、殆どの人が「寺小屋」と書くそうで「寺子」とは、お寺の境内で遊んでいる子どものことを指し、そんな寺子たちを慈しみ、社会に出たとき読み書き、そろばんに困らないよう、最低限のことを教えてあげようと、僧侶だとか浪人等が教えてあげたのが、「寺子屋」のはじまりだと言われています。江戸時代、農民も含め識字率七十%を保ったのは、世界でも希有のことであり、まさに寺子屋のおかげだったのでしょう。殆どの人が間違っって書く「寺小屋」には、寺の中に小屋を建てて受験予備校のように、勉強を教えるイメージがあるのでしようが、寺子屋では、成績を比べ合ったり、順位をつけたりはしていませんでした。現代教育に歪みが出てくるのは、徹底競争を持ち込んだ、この辺りに真の原因があるのかも知れません。寺子屋時代の日本の教育は、その後、どんどん欧米化が進み、まさに農耕型と重なり合っています。草食動物的教育から、狩猟民族の肉食動物的教育に変わって来ている。肉食動物の目を見ていると、虎やライオン等、みんな攻撃的で鋭い目をしていて、それに比べて、キリン、シマウマ、象、羊など、草食動物の目は穏やかです。仲間を大事にし、いつも寄り添っている姿は、「寺子屋」のイメージと重なり合っています。筋肉は使えばどんどん鍛えられます。幸せを感じる心のように使え方がわかりにくいものは逆から行きましょう。楽しいから笑うけれど、逆に、笑うと楽しくなりませんか。どんな時も笑って「ありがとう」と言っている、どんなに幸せを感じるようになって来ます。

逆から行きましょう